

[別紙一] 概要文

「交通手段の分散」に焦点をあてた那覇都市圏の渋滞緩和の取り組みについて

南部国道事務所 調査第一課 ◎安次富 長一
○高良 茂宏

1. 目的

那覇都市圏（那覇市、浦添市、宜野湾市、南風原町、西原町、豊見城市の6市町）における慢性的な交通渋滞を緩和し、安全かつ円滑な交通の確保を図るため、平成19年11月に「那覇都市圏交通円滑化総合計画」を策定した。

本計画は、ハード施策が中心となる「交通容量拡大施策」とソフト施策が中心となる「3つの分散」〔交通経路の分散・交通手段の分散・交通利用時間の分散〕を織り交ぜ、交通の快適性・利便性の向上、交通に起因する環境負荷の軽減等を図ることで、那覇都市圏の豊かで暮らしそうい地域の実現に資することを目的としているものである。

2. 内容

本件は、通勤・通学における自家用車への依存率が高い沖縄県において、公共交通機関等への転換を促し、渋滞の著しい那覇都市圏への交通流入を抑制する「交通手段の分散」に焦点をあてた取り組みについて報告するものである。

3. 結論

①企業、南部国道事務所職員を対象としたモビリティ・マネジメント（MM）の実施
環境への意識が高い企業及び事務所職員を対象に、交通行動の変容を促す説明会の開催や情報発信等のコミュニケーション活動を実施し、普及促進に努めた。

②都市圏への通勤者を対象としたパーク&バストライド（P & B R）の実施

平成18年度から実施し、利用者の職場での口コミでの広がりもあり、利用者が徐々に増加。予約待ちの状況になるなど、着実な効果が確認された。

MM：ひとり1人のモビリティ（移動）が、社会的にも個人的にも望ましい方向に自発的に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした交通政策

P & B R：自宅からバス停まで車を使い、そこからバスを利用して都心の勤務先に行く方法

4. 今後の問題点

「ガソリン価格の高騰」や「環境への意識の高まり」の影響もあり、自動車から公共交通機関、自転車等への転換を行う方も増えつつある。

一方で、自動車交通が中心となっている沖縄県においては、日常生活を行ううえで自動車は欠かせない存在ともなっており、未だ交通状況は厳しい局面にある。

これまでの取り組み結果から、人の生活スタイルを急激に変えることは難しいことを痛感しているが、自動車に過度に依存した交通手段を適度に（かしこく）利用する状態へ少しづつ変えていく地道な取り組みを継続できるかどうかが、潜在的な渋滞緩和要素を引き出す鍵になると考える。